



# Newsletter

Institute for Legal Studies

Kanagawa University

No.8

March, 2007

## 巻頭言

# 女性大統領の誕生か

矢口 俊昭

年が変わると、新聞には選挙に関する報道が多くなってきた。今年はいろいろな国において重要な選挙があるようである。わが国では、春の統一地方選挙そして夏の参議院議員通常選挙が予定されている。特に参議院議員選挙においては与野党の勢力が逆転する可能性がいわれ、政府・与党をはじめ野党がこの選挙を念頭に置き、いかなる政策や言動が選挙を有利にするかで、それらが決定されている感がある。物議をかもした、郵政法案に関して自民党の政策に反旗を翻したことから、離党した議員の復党を承認したのも選挙対策といわれたことは未だ記憶に新しい。

同様に春、4月には任期満了を迎えるシラク(J.Chirac)大統領の後継を決める大統領選挙がフランスで行われるが、シラク現大統領は引退するといわれ、新しい大統領候補が保守・左翼でそれぞれ名乗りを上げて、激しい選挙戦がすでに始まっているようである。はじめての女性候補としてロワイヤル氏(S.Royal)がたち、フランスも女性首相メルケル氏をいち早く輩出したドイツの後を追うことになるのか、注目される。そしてアメリカにおいても来年の大統領選挙に向けて、候補者指名争いが活発になりつつある。民主党の指名では、女性大統領を、あるいはアフリカ系非白人大統領をと、いずれもはじめて尽くして話題に事欠かないところである。

さて、フランスであるが、今のところ社会党のロワイヤル氏と国民運動連合(UMP)サルコジ氏(N.Sarkozy)の戦いといわれる。いつも選挙で話題となる右翼政党の国民戦線(FN)がどれだけ得票をの

ばすかなどもあるが、今回はやはりはじめての女性候補者が圧倒的に注目を集めているようである。彼女はかつて子供向けのテレビ番組に対する批判の一環として、日本の漫画・アニメが暴力的でかつ低俗であると厳しく非難したことで、わが国でも既によく知られている。その彼女が、1981年ミッテラン(F.Mitterrand)が110の提案を大統領選挙にあたり提示したことに倣ってか、およそ100の提案を「大統領の約束」(pacte présidentiel)としてこのほど発表した。これらには国民とのネットを通じての議論から直接に引き出されたものもあるといわれる。彼女はこれらの提案を通じて「より公正な」「より強い」フランスを取り戻すと主張する。他方、サルコジ氏は「全フランス人連合の大統領」そして人民と国家などとの「和解の大統領」を目指すという。

両者の政策については接近傾向がみられ、新味は少ないと思うが、政治の世界への女性の進出という点で大変興味深い。ル・モンド紙には「女性に権力を付与する用意は整っているか」などという見出しのもとで、議論がされる。そんななか、4人の子供の母親であるロワイヤル氏が大統領候補者となることはフランスでも画期的である。結果は予断を許さず、接戦が予想されるが、選挙そのもの、その後の内閣の構成そして政策など、しばらくフランス政治のなりゆきを注視したいと思う。はじめての女性大統領が誕生し、コアビタシオン(同棲)のパートナーであるオランド氏(F.Hollande)が首相ということになるのであろうか。

(法科大学院教授)